



ala クルーズ

広報第5号
平成15年12月1日

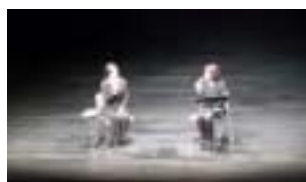
ああ懐かしの活動大写真

11月22日(土) 小劇場 1000円
来場者数 129名

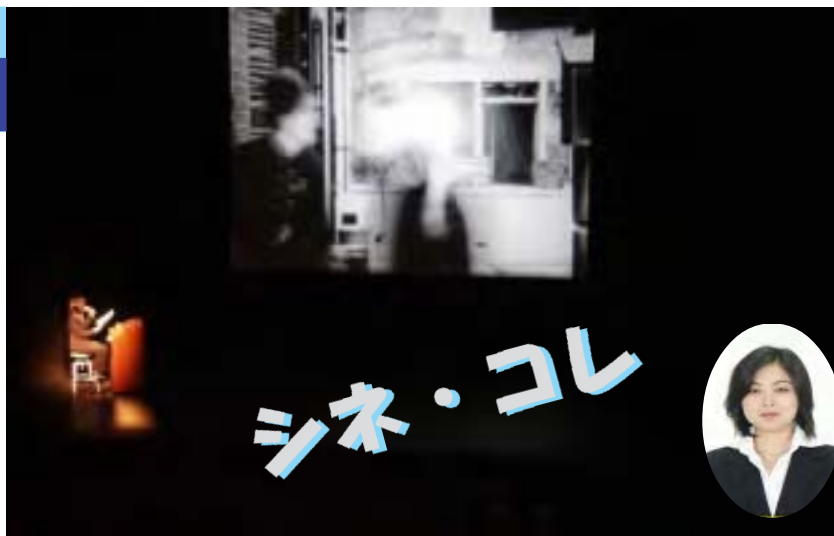
これまでシネ・コレでは様々な映画を上映してきましたが、映画の手法の1つとして日本独特の「弁士による語り」を知ってもらおうと、若手活動弁士・佐々木亜希子さんを迎えて活動写真の世界を再現することになりました。

当日は、昔ながらの「口上」から始まり「豪勇ロイド」「チャップリンの勇敢」「子宝騒動」と3

本の作品を上演。声色を変えながら1人で何役もこなしての熱弁は、まさに「話芸」のライブショー。「映像と語りが自然に一体となって予想以上によかった」と観客の評判も上々で、スタッフも今後の



継続的な開催を検討していくようです。後半はトークショーが行われ、弁士になった経緯や自分で台本を書くなど弁



士の仕事ぶりが紹介され、楽しいお話を聞くことができました。

実行委員会はこれまで16回のシネ・コレを企画してきました。毎回アンケートを取るなどして観客のニーズや開催方法を模索する中で、映画の選定、宣伝などいくつかの課題が見えてきました。来年度は、それらをふまえリニューアルする「シネ・コレ」からますます目が離せなくなりそうです。

サイレント映画「肉体の悪魔」

8月31日(日) 9月1日(月) 映像シアター 無料
来場者数 76名

今回は映像の文化と発達が、後世に伝わるようにDVDに収録された作品でした。感想を聞くと「ただ漫然と」とか「alaへやって来たので、ついでに」という感覚の人が多かった。当然その時代に無声映画を観た経験のある人は非常に少なくなっているはず。昔懐かしいというより「物珍しさ」から映像シアターを訪れた人がほとんどと思われた。この時代画面の大きさ、音響効果、色調、撮影技術の進歩により表現力が豊かになっている。動きと時々現れる台詞とも解説とも受け取れる文字のみの映像では少々勝手が違ったようだ。その時代上映された時は弁士の名調子が付いていたのではないかと思われるが、何か読み手の無い紙芝居の感覚であった。いまも昔も作者が何かを訴えようとして映像を制作するが、現代の技法に慣れてしまうと古い作品の理解は難しく、骨董品の感覚になるかもしれない。

キートンのセブンチャンス ジャズシンガー

10月26日(日) 27日(月) 映像シアター 無料
来場者数 キートンのセブンチャンス 4名
ジャズシンガー 7名

上映会を終えて外は真っ青な空、赤や黄色の葉っぱの美しさ、心地よい日差しに完敗ということで少し寂しい入場となってしまいましたが、観客の方の、古い映画を観るのはうれしいし、楽しみにしている・・・という言葉がわたし達、実行委員にとって大きな励みとなりました。少しでも多くの方に楽しんで来て頂ける様、努力をしなくてはと気持ちを引き締めました。

来場者の声

無声映画というのは表現力が素晴らしいので、毎回とても楽しみにしている。昔はお金もないしなかなか観に行くことも出来なかったので古い映画を観るのはうれしい。人数が少なくて寂しかった。今までこんなことはなかった。映画の原点を見られたような気がする。

可児にアフリカがやってきた アフリカYear2003

今年は国際アフリカ年です。アフリカの文化、芸術に親しみ、友好を深めようと日本中でさまざまなイベントが開催されました。可児市でも、カラハリアート展やバオバブコンサートなどが行なわれました。夏休みということもあり、たくさんの親子づれが来館しました。特別企画として美術ロフトに、『MYアフリカDAY』という市民参加のブースが用意され、alaクルーズの創造・企画グループが、クルーズ会員Yさん所蔵のアフリカコレクションを展示しました。



カラハリアートに参加して

～MyAFRICA ワンデイ・エキシビジョン～

続々届く、見たこともない大きな木のイス。ダンボールの中から次々出てくるお面やお金、何メートルもある染色した布、などなど、展示準備に参加した私の瞳は、少女マンガのように、星がキラキラしていたことでしょう。瞬間アフリカファンになった私には説明していただいた言葉が吸い取り紙のように頭に吸収され(いつもこうだといいいけれど)、「この感動をお客さんに教えないのは申し訳ないゾ」と興奮気味。当日、朝一番に顔を出し待つこと数分、お客様は不安気にキョロキョロとしながら、顔から入場です。「いらっしやいませ！こんにちは！」と、精一杯のさわやかな笑顔であいさつ。お客さまが関心を持ってご覧のときは、「これはカバの皮でできた盾なんですよ」と言うと「へえーすごい！」と返ってくる言葉が心地よいのです。展示物に触れていただき、いろいろな木のイスにいっしょにすわりお客様も私も満足度100%でした。ただ見ることに以上展示会に企画、参加するというに、面白さと楽しさを教えていただきました。展示物を提供していただいたYさんや他のスタッフの皆さんお客さんに「ありがとうございました。」 (M.H)

NPO 法人化委員会

9月25日alaクルーズ「NPO法人委員会」が文化創造センター「ala創造スタッフ室」で行われました。法人化はalaクルーズが今後可児市の文化振興に幅広く協力するために避けて通れないものであります。

この日は定款の条文の見直しから始まり、その条文の語句が今後の活動に制限が加わってくるかどうかなど慎重に検討され疑問となる表現のしかたについては表現方法・語句のもつ意味合いなどを専門家に聞き参考にしていくことが話し合われました。このような検討を経た上でたたき台を作り役員会に諮ることを決め終了しました。

あなたはもう見ましたか？

ホームページが新しくなりました。すばらしいalaクルーズの紹介ページを作りました。掲示板(BBS)の設置で楽しい会話ができます。会員同士語り合いましょう。ご意見は各グループの担当者へ

企画・創造...千藤、大島
支援...大坪、寺松
広報...西岡、奥田



Mail alacrews@kpac.or.jp

URL <http://www.kpac.or.jp/alacrews/>

今年もわくわく うるおいコンサート

こんにち は じゃず

ジャズピアニスト佐山雅弘を迎えて

2004年3月7日(日)開場:PM 1:30

開演:PM 2:00 料金大人:1000円 小人:500円

alaクルーズの独自企画、運営のうるおいコンサートも今回で3回目になります。アーティスト選びからチケット売り、当日の会場作りまでクルーズだけで行います。大変だけど面白い、ワクワクするけどドキドキもするという熱いプロジェクトです。熱気溢れる実行委員会におじゃまして、意気込みをうかがってきました。

Q 3回目ということ?

A 1回目は公民館が会場でした。アールで行うようになって2回目。今回は参加型の音楽会で大人だけでなく子どもも楽しめるジャズを選びました。ぜひ親子できてほしい。



Q なにをねらって?

A 「こんにち は じゃず」と「ジャズ」を平仮名にしたところがねらいめです。従来の堅苦しいジャズのイメージを取り去ってほしい。リズムをとったり、手拍子を打ったりアーティストとコミュニケーションを取りながら親しんでほしい。

Q アーティスト選びのポイント?

A 今回参加型コンサートをめざして、佐山さんがそのコンセプトに合いました。多才なアーティストで、観客から『カレーライス』『ラーメン』といった題をもらって、即興でピアノを弾くことができます。また『トトロ』などアニメソングも演奏する予定ですので、子どもたちをはじめ幅広い年齢層に楽しんでいただけるのではないのでしょうか。

Q 皆さんに協力してほしいことは?

A クルーズの皆さんには、1人3枚程度チケット売りの協力をお願いします。お友達、ご家族おさそいいただき、alaクルーズの活動にも関心をもっていたらと思います。

実行委員のみなさんは取材のあとも、ポスターやチラシのデザイン等でおそくまで熱心に話し合いを続けていました。

福 祉 体 験 講 座

10月9日夜、可児市社会福祉協議会より講師4名をお招きして、福祉体験講座がアールで開催されました。フロントスタッフのメンバーを中心に26名が参加し、熱心に受講しました。

身体が不自由な方への介助といっても、さまざまな方がいらっしゃいます。前半のスタッフルームでの講習では、**お年寄りの介助 聴覚の不自由な方への対応 視覚の不自由な方への対応 車椅子を必要とする方への対応(車椅子の取り扱い)**の4つのケースについてそれぞれ担当の講師の方から説明がありました。日常の実経験に基づいた具体的な解説でわかりやすく、それぞれに要点をメモしていました。特に大切な心構えとして、「介助する際いきなり手を出すのではなく、お声がけをしてから手をさしのべる事が重要です。」という説明には多くのスタッフがうなずいていました。



後半2グループに別れ、車椅子の対応と視覚障害者の案内の実施

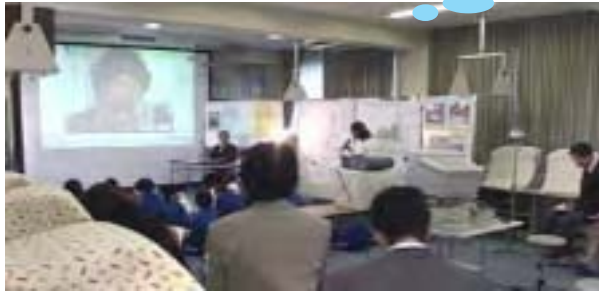
研修が行われました。2人で1組になり介助する人とされる人になって行いました。

一見簡単そうに思える車椅子ですが、実際に人が座っての操作は勝手が違います。止まったら必ずブレーキをかけることや車いすの幅だけでなく肘などの幅も考えて移動することなど、細かな注意点を指摘されていました。



また視覚障害者の案内は非常に大変で、常に声をかけて行動することの重要性を強調されていました。アイマスクをつけ視覚障害者の役を演じての階段の上り下りは真っ暗闇で本当に怖く、改めて視覚障害者の苦勞を認識していました。

2時間の講習で、トイレと主劇場の2カ所の案内だけでしたが、受講者は貴重な体験をされたことと思います。この研修を活かして来館者へのよりきめ細かいサポートが出来るよう、期待したいと思います。



「アーラを造るのになぜ22年間もかかったのだろう」をテーマに、11月21日今渡北小学校の視聴覚室で、6年2組の社会の授業が行われました。小学校と可児市総合会館分室との間をインターネットで結ぶテレビ会議システムを利用して、澤野会長が児童の質問に答えるというやり方で進められました。視聴覚室にはアーラに関する予算や市民活動の推移を記した資料が貼られ、既に何回かの授業が行われてきた様子でした。約30名の児童の元気な挨拶に始まり、一人ひとりが立ち上がって質問をしています。後には視察のため10数名の他校の先生も参加されました。



「予算はどのように調達したか」とか「場所はなぜ下恵土になったか」「設計段階で市民活動はどのような関わりを持ったのか」等々、児童たちの具体的な質問に分かりやすく説明をしていました。

テレビ会議は回線の状況が良好でなかったのか、会話は辛うじてできたものの、映像は時折乱れてしまい、必ずしも成功とはいえませんでした。しかし、このような授業を通して、子供たちが自分たちの町にある文化創造センター、アーラに関心を持つことができたことは有意義だったと思います。



進め!
(5) ほんだひろ **alaクルーズ**



全体会議

- と き 平成 16 年 1 月 17 日 (土) PM 2 : 00 (受付 PM1 : 30)
 ところ 可児市文化創造センター 音楽ロフト
 議 題 1 . 特定非営利活動法人 ala クルーズ定款 (案) の説明
 及び検討について
 2 . その他 (alaクルーズ活動や運営についての意見交換)

交流会

- と き 平成 16 年 1 月 17 日 (土) 全体会議終了後
 ところ 可児市文化創造センター 音楽ロフト
 参加費 2000 円
 申込み締切り 平成 16 年 1 月 10 日 (土) までに事務局へ
 会費は当日徴収いたします
 お酒があるから車はダメよ!

編集後記

alaクルーズが発足して2年が経ちました。広報紙の発行も第5号と回を重ね、準備号を合わせると7紙目になります。7月からはホームページでの閲覧も可能になり、さらに多くの方にご覧頂いているかと思えます。

8月末に九州から劇場運営担当の方が視察に来られました。「随分遠くから」と伺いましたら全国ネットに紹介されていたそうです。alaクルーズの活動は全国的にも注目されているのだな、と驚き、再認識もいたしました。同時にその注目に恥じないような活動をしなければと、思い直しもしています。

来年にはNPO法人化も検討されているようです。その名にふさわしい活動を進めていきたいと思えます。(S.O)